

日本SOD研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

がん 再発、転移 その見極めと生存率

再発予防にはやはり SOD

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/>

がん、悪性腫瘍というのは、正常細胞や組織を破壊しながら増殖を繰り返し、さらに血液やリンパの流れに乗って離れた臓器へ飛び、新たな腫瘍を作ります。これを転移といいます。がんというのは、こうして正常な人間の組織を破壊し、他の臓器への転移、再発を繰り返しながら無限に増殖し続け、最後には宿主である人間を死なせてしまいます。

WHO(世界保健機関)によれば、2005年の世界の5800万人の死亡のうち、悪性腫瘍による死亡は13%(760万人)を占めています。死亡原因となった悪性腫瘍のうち、最多のものは肺がん(130万人)で、胃がん(100万人)、肝がん、大腸がん、乳がんなどが続いています。悪性腫瘍による死亡は増加し続け、2030年には1140万人が悪性腫瘍で死亡すると予測されています。日本では1981年から死因のトップになり、2006年は死因の3割

を占めています。現代人にとってがんは避けて通れない疾患なのです。

がんが恐ろしいのは、そもそも再発、転移する特質を持っていることです。がんは、発見されたときのステージにもよりますが、進行するに従って生存率が低下するということが証明されています。そしてがんは、がんが診断された時点で転移の可能性を否定できません。毎年、50万人もの人ががんと診断され、そのうちの30万人が死亡しているという状況は、治療を行ったにも関わらず、転移、再発によって生存率が低下しているためとも言えます。

通常、がん治療の基本は、外科手術でがん細胞を切り取ってしまうことです。手術によってがんが完全に切除できたと言われると、患者さんの多くは治ったと思われしますが、がんが他の病気、例えば外傷などと違うことは、手術がうまくいったと思っても、何割かの

人は数年後に再発する危険性が残っているということです。

今回は、その再発、転移について丹羽先生にお話をうかがってきました。

手術で取り除いた腫瘍の中にあるがんの数で再発の可能性が分かる

——最近、周囲で乳がんの再発、転移が多く、今も手術はできなければどいつ再発するかとびくびくしながら生活しているという現状が多いと思うのです。そこで、先生に再発、転移についてうかがいたいのですが、再発するかしないかの見極めというのはできるのでしょうか。

「乳がんというのは、僕の本『がん治療 究極の選択』のなかにある抗がん剤で治るがん、治らないがんの表(図1)で見ると2番目にあたるがん。2番目は、子宮がん、直腸がん、甲状腺がん、精のうがん、前立腺がんというのでも分かるよ

うに体の中心から離れたところにあるがんで、乳房は中心にあっても心臓などの臓器とは壁を隔てている。これらは、早めに手術をして、それが転移していないと分かっています。手術ですべてを除去できたら大丈夫なんです。しかし、手術で



すべて除去できたから成功ですと言われたのに、1、2年後に再発する例も、1割くらいいる。これはどうしてかという点、除去したといっても、肉眼では分からないがんが残っていたりするんです。当

然、手術の前には様々な検査をする。組織を調べ、CTも撮って細部のがんまで写し出す。ところが、そのCTにも写らない見えにくい部位にがんができていることがあるんです。手術したときに分からなくて取りきれなかったもの、これが1、2年で出てくるわけだ。これはもう避けようがない不可抗力。今の医学ではどうしようもない。

だから5年間、再発がなければ大丈夫というんです。5年というのがひとつの目安。特に表の2番目のがんは、手術で取りきれて、5年再発がなければ大丈夫と思ってください。

次に表の4番目。ここには肺がん、胃がんなど、短期間しか延命しないがんとして列記されていますが、これは、抗がん剤治療では効果がないがんと言う意味でもあります。しかし、これも、手術をしてすべてのがんが取りきれて、致命的なところのどこにも転移しないで5年以上生きられたら、大

丈夫です。致命的というのは、例えば乳がんなら肺への転移はいかんね。あと、リンパ腺への転移もいかん」

——リンパを伝っていく転移は、前もって分かることはないんでしょうか

「乳がんの転移で、ひとつ、助かるかそうでないかが分かる方法がある。肺がんなどはだめだが、乳がんは手術のとき、乳房の周りをぐるとと切除する。その手術をしたあと、リンパ腺へどれくらい散っているか、近くのリンパにどれくらいきているかを調べれば分かるんです。だいたい10個のリンパ腺の腫瘍を除去したとして、そのなかの何個ががんになっていたかを

◆丹羽先生診察ご希望の方は御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メデイカル研究所

☎0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎03(5787)3498

まで お電話ください。

【図1】

抗がん剤で治るがん と 治らないがん

講談社刊 丹羽鞠負 著『がん治療 究極の選択』

<p>①抗がん剤で治癒、長期延命のがん (主に血液のがん)</p>	<p>小児の急性リンパ性白血病 (ALL)、精のうがん、肺の小細胞がんで限局性のもの、小児の急性骨髄性白血病 (AML)、初期の悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病 (CML)、慢性リンパ性白血病 (CLL)、絨毛腫瘍、小児の固形がん (主に肉腫)</p>
<p>②手術だけで治癒するがん</p>	<p>乳がん、子宮がん、直腸がん、甲状腺がん、精のうがん、前立腺がん*</p>
<p>③抗がん剤で延命効果があるがん</p>	<p>乳がん・卵巣がんの再発、乳がんの肺 (肝) 移転、卵巣がんの腹膜転移 (→未治療群より6ヵ月～1年延命)</p>
<p>④短期間しか延命しない固形がん</p>	<p>肺がん (限局性の小細胞がんを除く)、胃がん、大腸がん、喉頭がん、咽頭がん、食道がん、腎臓がん、肝臓がんなど。再発・移転した子宮がん、甲状腺がん (→未治療群より1～5ヵ月延命)</p>
<p>⑤どんな抗がん剤治療でも早期に死に至るがん</p>	<p>膵臓がん、胆のうがん、胆管がん。(数は少ないが) 胸膜中皮腫、悪性繊維性組織球腫 (MFH)、成人の (消化管以外の) 肉腫</p>

*手術せずホルモン剤で治療する場合が多い

調べるんです。それが3つ以上あると再発、そして死ぬ確率が高くなりますね。2つ以内なら大丈夫」

——それはお医者さんで教えてもらえるのでしょうか

「今は、10人中5人のお医者さんは、こちらが聞く前に教えてくれるものだけど、教えてくれなかったら、リンパ腺にがんはどれくらいきていましたか? と聞くのがいちばんいい。乳がんではこれは常識だから。」

——乳がんが再発した時点で、抗がん剤治療をやめ、丹羽療法を選択すれば効果はどれくらいあるのでしょうか

「10人中8人は助かる。その代わりに、再発が分かったらすぐに僕のところに来ること。そうでなく抗がん剤治療等を選択した場合、まず可能性はなくなるでしょうね。あと、手術の話になりますが、がんの手術は、どんなに大きな岩みたいながんでも、可能な限り取りきることが大事です。浸潤といってがん

が胃から肝臓などにしみこんでいるように広がっているものは、手術ではなかなか取りきれない。その場合、取り切れないからといって、胃だけ切って閉じたりするヤツがいる。それは絶対にしてはいけない。取るならすべて取る。これ以上取ったら膜が破れて危ないとかいって一部を残すなんてことしたら、すぐに死ぬ。転移で周りに散っていて取りきれないからといって手術を途中でやめて残すと、あつという間にダメになる。もしも乳房に乳がんがあつて、切除手術をしようとしているときに肺に転移がみつかったら、もう乳房も切らない。これが原則です。多臓器転移は取らないのが常識。それをわからずに中途半端に切ってしまう医者もいるから、よく見極めてください」

国際医学雑誌に

『丹羽分類』として発表

今年に入ってから講演などで丹

羽先生がおっしゃっていた国際医学雑誌への論文掲載がよいよ本格化しています。今回ご紹介した『がん治療 究極の選択』の表はとくに評価が高く、欧米の医学会で大きな反響を巻き起こすことは間違いないとのこと。先生曰く、「がんをこういう表に分類した医者は僕だけらしい。というのは、これまで、外科の医者は肺がんだけ、婦人科の医者は乳がん、子宮がん

だけ、消化器系の医者は胃がん、大腸がんだけしか臨床結果を出していない。僕のようにすべてのがんを治る治らないで分類したのはいないんだ。しかも、2500もの症例も例がない。というのは、これまでみんな各ジャンル別にか情報交換がなく、それほどの抗がん剤が何ヶ月延命できた、できないというような無意味な情報交換ばかりだったんだな」

この丹羽先生の分類は画期的と好評で『丹羽分類』として早ければ年末、遅くとも来年春までに国際医学雑誌に発表されることになりました。掲載されたいち早く会報でも特集を組む予定です。お待ちください。



講談社プラスアルファ新書

がん治療
「究極の選択」

抗がん剤を超えた丹羽療法
丹羽鞠負 土佐清水病院院長

ISBN4-06-272555-0



がんは普通の病気と違って、非常に多くの人々が生命を失うため、どうしようかとみんなが右往左往します。

抗がん剤はがんも叩きますが、人間の正常な細胞よりもがんの方がずっと力が強く、がん細胞が死滅するまでに人間の方が苦しんで死んでしまうので、がん患者さんは非常に悩むのです。

そこで現場のお医者さん方が、「がんだから抗がん剤」と無益に患者さんを苦しめて死なせてしまうことのないように、抗がん剤の正しい適用法とその限界を一覧にまとめました。

がんの原因の一因である活性酸素に対して、それを体内で無毒化させる「抗酸化剤」や、天然の制がん物質を活性化させた「制がん剤」を試みる著者の丹羽療法と、そのいくつかの著効例についても紹介してあります。

—愛飲者からの質問— 丹羽先生に聞いてみました

今回のSOD愛飲者からの質問は、

〈統合失語症(精神分裂症)の人の、幻覚、幻聴のような症状にもSODは有効でしょうか〉

というものでした。さっそく丹羽先生に聞いてみました。

「統合失調症の種類にもよります。また、どのような原因でなったかにもよります。脳のどこかがやられて発症したのに関してはSODは効果的です。しかし、原因がわからないもの、脳のどこにも損傷がないのに症状が出ているものに関してはその効果はわからないですね。例えばパーキンソン病やアルツハイマーなどのように脳の部分の損傷からきていると分かっているものには効きます。

アルツハイマーにどうして効く

かというところ、アルツハイマーは前

頭葉と関わっているんです。その前頭葉というのは、人間が思考するときにいちばん使う部分なんです。だからいちばん血液の新陳代謝が盛んで、活性酸素が異常に発生するんです。これは運動している臓器とそうでない臓器にも共通

することで、運動している臓器、例えば心臓ですね。

あと、関節にアトピー性皮膚炎が起こるのも同様です。それが脳の場合、前頭葉にくる。酷使して何もケアしていないとアルツハイマーになる可能性が高いですね。だから仕事ができる人に多いんです。予防、治療にはやっぱりSOD。これを飲んでいれば大丈夫です」

これ

を

飲

ん

で

い



SOD愛飲者インタビュー

SODで長年の膝の痛みが和らぎ、血糖値まで下がった

大分県 安田郁子さん(79歳)

今回お話をうかがったのは、大分県にお住まいの安田さんです。

SOD歴は実に7年あまり。娘さんの勧めで健康維持のために1日に1包ずつ飲まれていたそうです。

79歳という年齢のせいもあります

が、ここ6、7年は膝の痛みに悩んでいらつしやいました。

「整体や針にも通ってはいたんですが、痛みは少しずつ悪くなる一方。病院に行っても、年齢のせいだからこれはしょうがないと言われて、コンドロイチンなどの健康補助食品を気休めに飲むしかなかったんです」

1日1包のSODもそのひとつ

でした。安田さんは大の薬嫌い。というのも、風邪や胃もたれなどで薬を飲むと、そのあと必ず体調

を崩していたからです。

「体質的に合わないんでしょうね。薬を飲むと必ず下痢をしたりしていたんです。それで30歳くらいから薬を飲まなくなりました」

ということも当然、お医者さんにもほとんど行ったことがなく、健康的な生活を送っていました。

さらに健康維持のためにと週に一回は公民館で行われる気功にも通う日々。12年間も気功に親しみ、

同じ年の仲間よりははるかに元気な生活を送っていたのです。ところが、膝の具合が悪くなり、ここ数年は満足に運動ができなくなっていました。

「そのせいでしょうか、健康診断で糖尿病の予備軍だと言われたんです」

あたりまえのように、薬の飲用と食事療法などを薦められました。しかし安田さんは

「私は薬が合わないから、どうしても薬が必要な半分にしてください。あとは食事療法と運動でがんばりますから」

と、薬を辞退したのです。結局、薬は半分の量を半月飲んだだけでした。その頃の血糖値は140。通常、空腹時で110以内というのが正常値の基準ですから、140は高めで要注意という診断になってしまいます。とはいっても運動と食事療法はなかなか続けられるものではありません。味気ない食事ばかりでは気分が滅



入ってしまいます。当然のごとく血糖値はそう簡単には下がらず、高値安定を数年間ずっと続けていたのです。さらに膝の痛みは増す一方。そんななか、

「娘が、そんなに痛いのならSODを多めに飲んでみたらどうか、と言うんです。糖尿病にもいいらしいから、思い切って飲みなさいって。そもそも健康維持にとSODを勧めてくれたのも娘だったんですよ」

安田さんは、SODがいったい何に効くかわからず、健康維持にいいといわれるままに飲んでいただけだったそうです。娘さんの勧めもあり、思い切って1日に9包飲み始めたのは最近のことでした。

「3ヶ月くらい前からなんですよ。飲み始めて2週間くらいしたら膝の痛みが減ったんです。ずいぶん楽になったんです。それだけではなく、血糖値の数値も140から112になっていて、先生がびっ

くりされてきました。なにをやっても下がらなかった数値が、見事に下がっていたんですよ。それは嬉しかったです。そのときに初めて、このSODというのはすごい健康食品なんだと気づいたんですよ」

6年間も下がらなかった血糖値がたったの3ヶ月で下がったといえます。30年以上も薬を一切飲まないで健康的な生活を送ってこられた安田さんだから、余計にSOD効果が迅速で高かったのかもしれないですね。

膝の具合も快調で、SODの量は1日6包に減ったそうです。

「あ、そうそう。いちばん最近計つ

た血糖値は102だったんですよ。2週間くらい前です」

102と言えばまったく正常値です。

これでまた公民館で行われている気功にも毎週通えます。加齢と共に体は若い頃のようにはいきません。しかし、安田さんは79歳で血糖値と膝の痛みを改善されました。人間、年齢なんか関係ない、そのことを身をもって教えてくれた安田さん。本当のSODとの付き合いは始まったばかりのようなものです。これからが本調子かもしれないですね。元気なお声、ありがとうございます。

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

TEL 03-5787-3498

までご一報ください。

SOD様作用食品とは● 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため、内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽勲負（耕三）医学

博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治療力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

丹羽療法を知る一冊

◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品 摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」

廣済堂

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」

廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた

医者的心」

草思社

「安心の医療・本当の健康」

みき書房

「クスリで病気は治らない」

みき書房

「医は仁術なり」

至知出版

「丹羽療法全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」

リヨン社

「SOD様作用食品の効果」

小冊子

